

プラネタリウムの話題

## 秋の星座

にぎやかだった星空も、秋になるとさびしさが増してきます。夏の星々をさがす目印になっていた夏の大三角は西の空に移り、東の空からは大きな四角形が登場します。

秋の星々をさがす目印、ペガサスの四角形です。ペガサスは羽を持った馬で、空を飛ぶことができます。

この四角形の右の辺を南へ伸ばすと、秋の星々の中でただ一つの一等星、フォーマルハウトが見つかります。さびしい秋の星空に一つだけ輝いているところから「南の一つぼし」とも呼ばれています。この星のある星座は「みなみのうお座」です。

今度は左の辺を、南へ伸ばすと少し明るい星が見つかります。この星はデネブ・カイトスといえます。「デネブ」はしっぽ、「カイトス」はくじら、つまり「くじらのしっぽ」というわけです。この星のある星座は「くじら座」です。

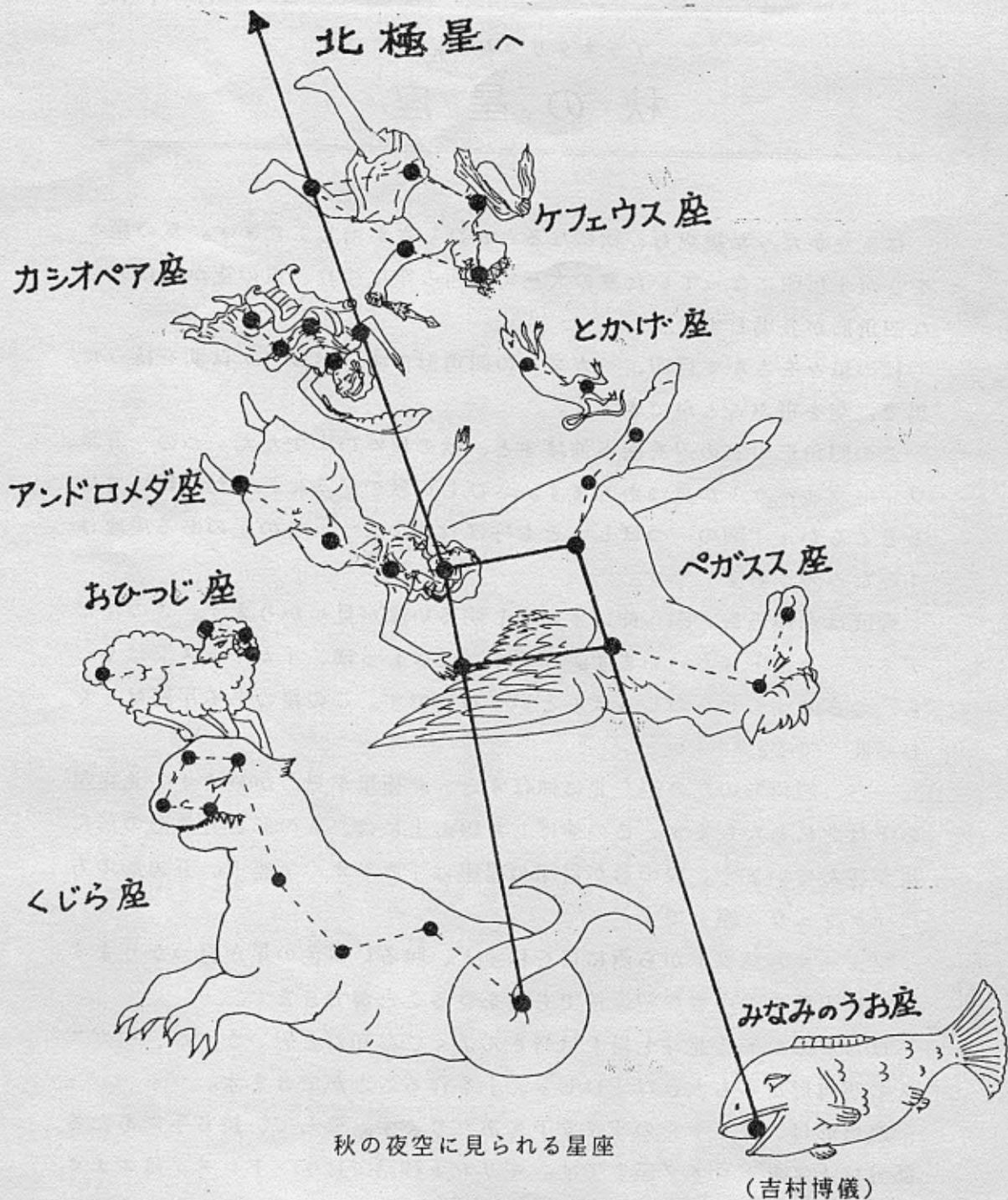
一方、四角形の左の辺を北に伸ばすと、北極星が見つかります。北極星の下は北にあたります。この伸ばした線の上には、Wの形と五角形の形に星が並んでいます。Wの形が目印の星座は「カシオペア座」、五角形の方は「ケフェウス座」です。

フォーマルハウトから西に目を移すと、明るい黄色の星が見つかります。これは土星で、小さな望遠鏡でも環を見ることができます。

ひしゃくの形「北斗七星」は皆さんよくご存知だと思いますが、ペガサスの四角形からも大きな「ひしゃく」を作ることができます。

四角形は、ひしゃくの「ます」にあたります。そして、持ち手にあたる部分は「アンドロメダ座」です。ギリシャ神話ではアンドロメダはエチオピアという国のお姫様で、お父さんはケフェウス、お母さんはカシオペア、家族そろって秋の星座の仲間です。

秋の夜空には、ほかにも多くの星座たちがいます。南の地平線スレスレには空高く飛べるはずの「つる」が地上を歩いていて、逆に、ほんとうは飛べないはずの「ひつじ」が星座の世界では空を飛んでいます。「とかげ」も小さいながら秋の星座の一員です。



## 富山市科学文化センター

〒939 富山市富山市西中野町1-8-31

TEL (0764) 91-2123 (代表)

平成 9月10日